

カラスの記憶人間以上？

1年後も色覚えてます

カラスの生態に関する研究を続けている宇都宮大農学部 杉田昭栄教授（動物形態学）らのグループが、中部電力との共同実験でカラスが少なくとも1年間色を記憶できることを突き止めたことが5日までに分かった。鉄塔への営業による送電トラブルなどの被害に悩む中部電力が、杉田教授側に依頼したカラスの生態研究の一環。杉田教授は「色彩を1年間覚えてるのは、人間でもなかなか難しい。記憶の側面では、人間より優れている可能性がある」と話している。

宇都宮大と中部電が実験

実験はハシブトガラス24羽で実施。同じ容器を二つ用意し、ふたにそれぞれ赤と緑、青と黄の2色のマークを描いた。赤と緑の方だけに餌を入れ、ふたを破って食べられるようにし、パターンを覚えさせた。その後、通常の飼育をして1、2、3カ月後、半年後、10カ月後、1年

後の計6期間を4羽ずつに分けて実験を実施。24羽のうち18羽が90%以上の餌の取得率だった。1年後も4羽のうち3羽が90%の取得率だったことから、1年間記憶を持続できるかと判断した。

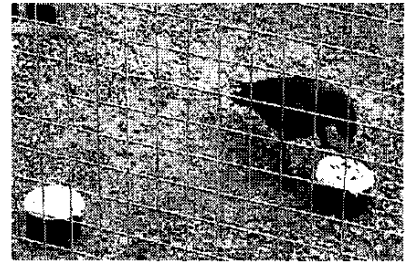
カラスの色の記憶実験



カラスなぜ数えるの

の大小認識を解明

カラスの生態に関する研究を続けている宇都宮大農学部の杉田昭栄教授（動物形態学）らのグループが、餌を使った実験でカラスが数の大小を認識できることを解明したことが3日、分かった。同日までに動物行動学の国際誌に掲載された。杉田教授によると、カラスの数の認識力を解明したのは世界初で、「結果は意外だった。数について人間と同じような思考を持っている可能性がある」と指摘している。



実験で、マークの数が多い方を選ぶカラス（宇都宮大農学部の杉田昭栄教授提供）

する③総面積を均等にすると3種類の20パターンずつ実験。マークの形、面積、位置などで判断していないことを裏付けた。その後、マークの数を2〜8個と変えても、1パターン以外は平均約70%から約90%の高確率で餌の入ったマークの数が多き容器を選択したことから、数を認識していると判断した。個々の取得率は最高82%、最低69%で個体差もあった。



実験はハシブトガラス5羽、横2・5羽、高さ8羽で実施。縦2・さ1・9羽のケージ内

宇都宮大グループ「人と同じ思考か」

Q スーム
ハシブトガラス、ハシボソガラスとも日本でも一般的なカラス。東南アジアを中心に、日本でも広く分布。国内では高度経済成長期以降、ごみを食べ散らかすなどの被害が表面化した。ハシボソより一回り大きく、肉系の食べ物を好む。

同じ容器を二つ用意し、ふたに同じ模様のマーク2個と5個を描いた。5個の方だけに餌を入れてふたを破って食べられるようにし、餌の取得率が70%を超えるまで訓練した。この条件でマークについて①場所を一定にできないか、②思っている図形に異なる図形に

